

市民・行政と共に地域の課題解決に取り組む小規模図書館

京都東山における「図書館から始める文学まち歩き」をふまえて

桂 まに子

抄録：京都市図書館の分館である東山図書館は、地元が登場する文学作品のリストを作成したものの、人員不足と低予算がゆえに、リストを用いた文学まち歩きを単独で企画・開催することが困難であった。しかし、図書館がまちづくりの話し合いの場に加わることで市民とのチームが生まれ、まちづくり支援事業に申請することで行政から助成金が交付され、公的な課題解決型事業となった。小規模図書館が市民・行政と協働して当該地域のまちづくりに直接関わることは、地域に求められるサービスを目に見える形で実現する有効な手法である。

1. はじめに

1.1. 図書館の新基準が示す地域図書館像

『これからの図書館—地域を支える情報拠点—』（文部科学省、2006年）および「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（2012年12月19日文部科学省告示第172号）は、公立図書館が地域の情報拠点となり、地域の課題解決に対応したサービスを充実させていくよう方向付けた。前者は2001年に「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が施行されて以降の図書館を取り巻く社会変化に対応させた提言であり、後者はこれを受けて取りまとめられた図書館の新基準である。基準が改正されたことにより、全国の公立図書館では、地域性や課題解決を意識したサービスの見直しと強化が求められつつある。

1.2. 研究目的

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（2012）より、公立図書館の新しい図書館サービスに該当する箇所を以下に引用する。

3 図書館サービス

（三）地域の課題に対応したサービス

市町村立図書館は、利用者及び住民の生活や仕事に関する課題や地域の課題の解決に向けた活動を支援するため、利用者及び住民の要望並びに地域の実情を踏まえ、次に掲げる事項その他のサービスの実施に努めるものとする。

ア 就職・転職、起業、職業能力開発、日常の仕事等に関する資料及び情報の整備・提供

イ 子育て、教育、若者の自立支援、健康・医療、福祉、法律・司法手続等に関する資料及び情報の整備・提供

ウ 地方公共団体の政策決定、行政事務の執行・改善及びこれらに関する理解に必要な資料及び情報の整備・提供

基準の項目に用いられている「地域」の範囲に着目したい。「地域」をどこで区切るかによって、情報拠点となる「地域」や課題解決をする「地域」の範囲は変わるからである。公立図書館は自治体ごとに設置されるため、これに合わせて地域を捉

えることが一般的である。ただし、大規模自治体の場合、1つの地域内に複数の図書館が存在する。通常は1つの中央館と複数の分館で組織される。

例えば、東京都の場合、区市町村立図書館 362 館中 330 館 (90%) が分館である。京都府の場合、市町村立図書館 53 館中 40 館 (75%) が分館である。なお、1 区市町村につき 1 館のものはこれに含めない (東京: 25 館, 京都: 10 館)。¹⁾

先に挙げた 2012 年の新基準は、各自治体の公立図書館の中央館 (もしくは中央館機能を持った館) のみが満たせば済む問題ではない。分館においても規模に応じた地域の課題解決を支援するサービス体制が必要であると考ええる。

本研究では、中央館よりも分館の数が多い実情をふまえ、「地域の課題」を解決するサービスの対象となる地域の範囲を公立図書館の分館単位で捉える。分館特有の低予算・人員不足の環境下であっても地域の課題解決に取り組むことが可能な手法があるか否かを考察するために、アクションリサーチを用いた実践研究を行なった。

2. アクションリサーチ概要

2.1. 研究対象

京都市図書館の分館の 1 つである京都市東山図書館を研究対象とする。同図書館は東山区役所に隣接する建物の 2 階部分に位置し、延床面積 451 m² (中央館の約 5 分の 1)、職員数 6 名 (中央館の 6 分の 1) である。²⁾ 中央館であれば京都市全域に関わる新規事業の立案と予算申請が可能だが、分館の場合は独自の予算を持たないため、狭い地域を対象としたサービスに対する新規予算を獲得することは難しい。この状況は、他の自治体の中央館と分館の関係においても同様である。

東山図書館を選定したもう 1 つの理由は、同図書館がサービス対象の地域を意識したサービスを既に実践していた点にある。2011 年度より東山が登場する文学作品のリスト「京ひがしやま文学散歩」を作成し、手作りの冊子を館内で配布をした。このような分館独自の取り組みは、新基準が規定される以前から他の分館でもなされていることである。しかし、取り組みの多くは地域内の一部の利用者の知るところでしかなく、それらが地域の課題解決に繋がるサービスであることを地域全体に認知してもらう術がなかった。

本研究では、京都市東山図書館を例に、分館が既に蓄積してきたサービスを「地域の課題」を解決する新規サービスへと変化させ、地域内外で広く認知されるサービスとなる仕組みを設計する。

2.2. 研究手法・プロセス

研究者が現場に行為的に関わるアクションリサーチの方法を用い、京都市東山区役所が推進するまちづくり活動に区内の大学に所属する立場として参画した。アクションを起こす前に問題状況を整理し、それらの問題を解決するためのモデルを設計・実行する。アクションを起こした後に得られた状況変化を考察した結果を受け、モデルを再設計・実行していく方法である。³⁾

本稿では、2012 年 3 月～2013 年 3 月に京都市東山区で行なったアクションリサーチに基づいて記述を行なう。

3. 問題状況の整理

3.1. 東山図書館

図書館の特徴については 2.2 で詳しく述べた。2011 年度に作成した「京ひがしやま文学散歩」をベースに、2012 年度は収録作品数を前年度の倍の 50 冊に増やした。地域の特性を活かしたサービスは軌道に乗り始めたものの、小さな分館ではリストの配布以上のことを日々の業務に加えて行なうことは難しかった。



京都新聞 (2012 年 7 月 26 日)

折しも、東山図書館は 2013 年度に開館 30 周年を迎えようとしていた。しかし、それに合わせた新規事業の予算配分されないことが決定しており、新規予算なしでも可能な新規事業を模索していた。

その第一歩として「京ひがしやま文学散歩」の存在を館外で PR し、区民に興味関心を持ってもらう機会を増やすことが課題であった。⁴⁾



上から 2011 年度、2012 年度、2013 年度の
「京ひがしやま文学散歩」

3.2. 東山区役所

2011 年度に策定された東山区基本計画「東山・まち・みらい計画 2020」において、区独自のまちづくりの推進や課題の解決を図る取り組みに力を入れることが掲げられ、「区民提案・共汗型まちづくり支援事業予算」が新たに設けられた。担当部署の地域力推進室が中心となり、2012 年度からのまちづくり支援事業に向けた準備を進めた。京都市からは、まちづくり事業全般の企画・運営の助言を行ない、区民の自主的活動を支援するまちづくりアドバイザーが 1 名派遣された。

しかし、新しいまちづくり事業を開始するにあたり、行政側には不安要素があった。第 1 にまちづくり活動に関心のある区民が集まるかどうか、第 2 に区民主体のまちづくり活動の成果が行政の掲げる地域の課題解決に繋がるかどうかである。

東山区は基本計画に基づき、以下の 5 分野 20 項目の重点取組項目を挙げている。⁵⁾

1 自然環境

- (1) 東山の自然を守り育てる森林整備
- (2) 公共交通の利便性の向上

- (3) 東大路通の自動車抑制と歩道拡幅の推進
- (4) 豊かな自然や伝統産業を堪能できる散策体験コースの設定

2 産業・観光

- (1) 東山食文化の普及・促進
- (2) 伝統産業と先端産業の技術融合による新産業・新商品開発の促進
- (3) 「手しごと」産業の新たなビジネス展開の支援
- (4) 空き店舗を活用した「商い人」の育成
- (5) 暮らしに息づく「ほんもの」体験や、雅やかな「ほんもの」を堪能する滞在型観光メニューの創設

3 保健・福祉・教育

- (1) 地域に根差した子育てネットワークの拡充と子ども・子育て情報の充実
- (2) 子育てに喜びを感じ、親も共に育ち学べる取組の推進
- (3) 高齢者の多様な能力を生かした「東山シニアお助け隊(仮称)」の創設
- (4) 福祉ボランティアの育成と地域で支え合える体制づくりの推進

4 景観・都市基盤

- (1) 空き家を増やさないための取組の推進
- (2) 空き家の建替え、古い木造住宅の防火や耐震強化のための住宅改修支援
- (3) 木造文化を守るための建築基準法等の改正に向けた取組
- (4) 地域コミュニティの場となる路地、袋路の再生
- (5) 安全・快適に通行できる道路空間の整備
- (6) ユニバーサルデザインに基づく公共施設や駅、道路などの整備の推進

5 コミュニティ・自治

- (1) 世代間交流ネットワークづくりの促進

上記のいずれかに該当するまちづくり活動を「課題解決型事業」に認定し、活動資金の 4 分の 3 を助成する制度を設けた。区が抱える課題の解決や魅力の向上、もしくは地域の活性化を図るために助成金が活用され、区民の自主的な活動が増えることが期待された。⁶⁾

3.3. 「地域の課題解決」という共通点

京都東山は観光で有名な地域であるが、行政が解決したい重要課題の1つに、観光のマナー解消と新たな観光コンテンツの開発が挙げられていることが見えてきた。行政が策定した「地域の課題を解決する」ための基本計画は、同じ行政組織である図書館のサービス方針にも大きく影響する。図書館が課題解決型サービスを強化する根拠はここにあると考えることができる。

4. 「図書館から始める文学まち歩き」の実践

4.1. 「まちづくりカフェ@東山」開催

2012年3月7日に東山区のまちづくり活動第1回目の交流会「まちづくりカフェ@東山」が開催され、区内外から約60名が参加した。本研究の関係者である、東山図書館の館長および副館長、東山区地域力推進室の職員、まちづくりアドバイザー、研究主体の筆者、まちづくりの担い手となる区民らが一堂に会したのがこのときである。

東山図書館は3.1.で述べた「京ひがしやま文学散歩」のPRを行なうために交流会へ参加した。筆者は、自身の持つ「図書館から始める街歩き」という研究テーマで東山区のまちづくりに組み込んだ実践研究を始めたいという目的で交流会に参加した。両者を結びつけチーム結成を促したのは東山区の職員であった。3.2.で述べたように、地域の課題解決となる活動を見つけて支援することが行政のまちづくりにおいて重要だからである。

4.2. まちづくり支援事業助成金の活用

2012年4月の第2回交流会では、東山図書館の館長・副館長、筆者、古本屋店主、大学生が中心となって「図書館から始める街歩き」実行委員会を結成し、東山区が掲げる観光課題の1つである新たな観光コンテンツの開発（前出の東山区重点取組項目「2 産業・観光」）を目的としたまちづくり新規事業を計画した。

具体的には、東山図書館が作成した「京ひがしやま文学散歩」に掲載された文学作品50冊をもとに、東山区内に文学作品ゆかりのまち歩きコースを開発するというものである。

開発したコースのマップ制作やまち歩きイベントの開催を通じて東山の魅力を区内外へ広く発信

する事業計画は、東山区のまちづくり支援事業助成金の「課題解決型事業」に認定され、2012年度は10万円の交付を受けた。助成金の使用内訳は、マップやチラシ、まとめ冊子の印刷費である。

4.3. 図書館チーム結成

2012年6月の第3回交流会にて、正式に図書館チームを立ち上げ、実行委員会で取りまとめた活動内容に賛同する東山区民及び区外の京都市民がメンバーに加わった。大学生、教員、図書館員、書店店主、主婦、ゲストハウスオーナー、陶器屋店主、イラストレーター、など、業種も世代も異なる約15名がチームの活動を支えた。⁷⁾

まちづくりアドバイザー(1名)はチームの打ち合わせとイベントに必ず同席し、活動の進め方についてなどを助言した。その他、チームの活動報告をブログ『まちカフェ東山』から発信してくれていた。⁸⁾ 地域力推進室の職員(4名)はチームに加わらなかったが、まち歩き本を読んだり、イベントに参加したりして活動内容を把握した。

4.4. まち歩き企画の設計・実行

チーム結成後、2012年6月から9月までに行なった活動内容を以下に列挙する。

6月：東山図書館の「京ひがしやま文学散歩」をもとに、まち歩きに適した作品を探して読む。チーム内で本を紹介。まち歩きコースの開発に向けたアイディア出し。

7月：まち歩き本を『壺霊』(内田康夫、角川書店、2008)に決定。まち歩きマップを検討。各自『壺霊』を読む。

8月：チームで開発したまち歩きコースを使って『壺霊』ゆかりの場所を訪ねる。まち歩きイベントの開催日決定。マップに載せるイラスト完成。壺霊マップの制作開始。

9月：イベント用のチラシ完成。東山区内の関係各所、京都市内の図書館、京都駅の観光案内所などに配布。まち歩きイベントに向けた事前準備。

4ヶ月の準備期間を経て、2012年10月20日に「図書館から始める文学まち歩き：内田康夫ミステリー『壺霊』を辿る～浅見光彦が歩いた道～」を開催した。



第15回図書館総合展ポスター「京都東山 図書館から始める文学まち歩き」（桂まに子，2013年10月）

2012年度「壺霊まち歩き」コース（2時間30分）

スタート：京都市東山図書館
1：伊丹邸（架空）
2：安井金毘羅宮
3：祇園丸山
4：正雲堂（架空）

5：蓑家
6：東山署
7：幽霊子育館本舗
8：六波羅蜜寺
ゴール：京都市東山図書館

2012年度「図書館から始める文学まち歩き」宣伝チラシ（Appendix2）より

4.5. まち歩き参加者アンケートの結果

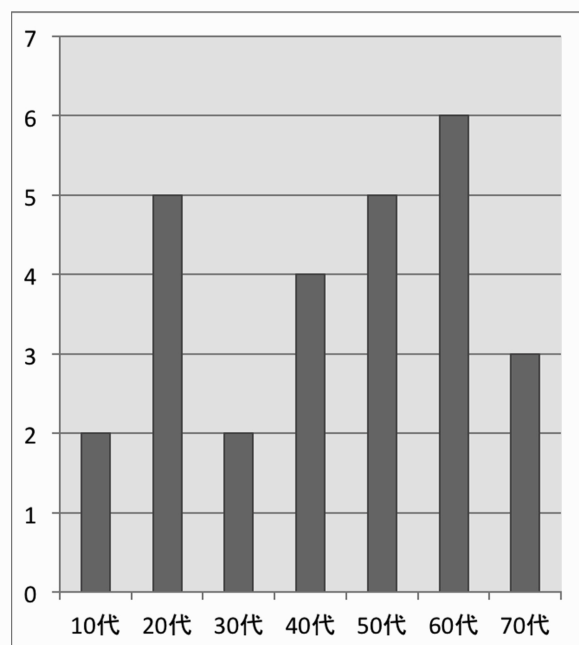
2012年度「壺霊まち歩き」の参加者は28名で、図書館チームからの参加者は14名であった。事前に『壺霊』を読むことを条件に申込みを募ったため、参加者全員が同じ小説を読んでいるのがこのまち歩きの特徴である。



京都新聞 (2012年10月2日)

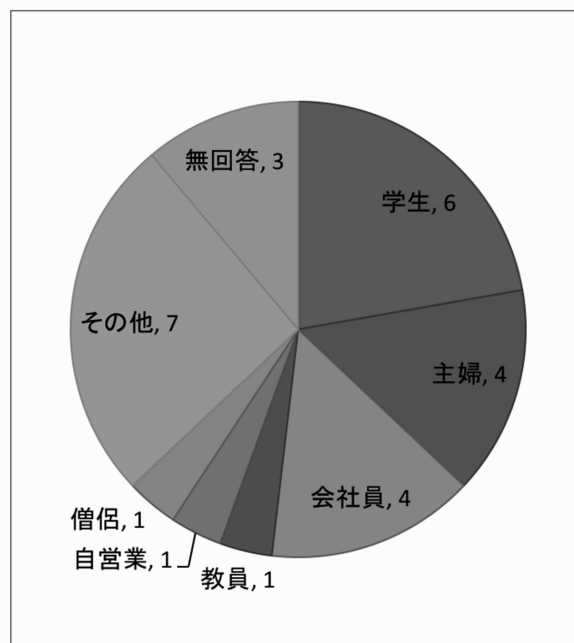
まち歩きイベント終了後に実施した参加者アンケート結果を以下にまとめる(有効回答数27名)。参加者の属性を見ると、各年代から参加があり、東山区外からの参加が多かった。

年代(括弧内は人数)：10代(2)、20代(5)、30代(2)、40代(5)、50代(5)、60代(6)、70代(3)



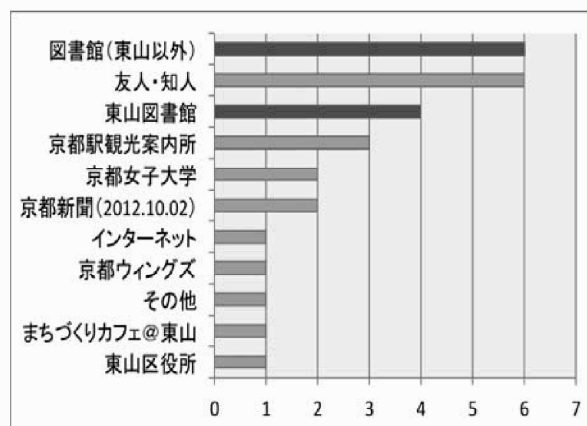
参加者の年代

職業：学生(6)、主婦(4)、会社員(4)、教員(1)、自営業(1)、僧侶(1)、その他・無回答(10)

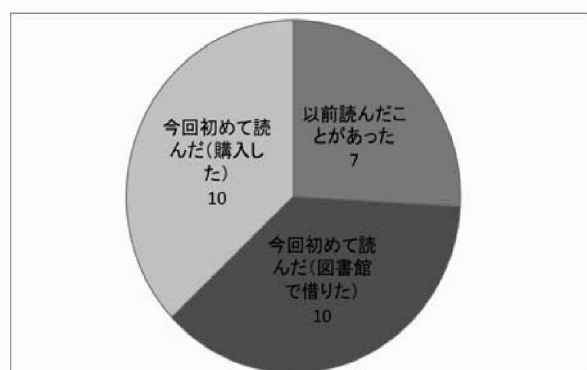


参加者の職業

A. 今回の文学まち歩きを知ったきっかけは？

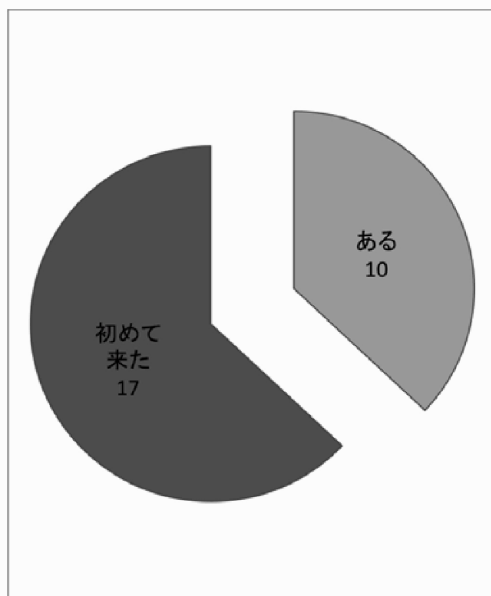


B. 『壺霊』を読んだことは？

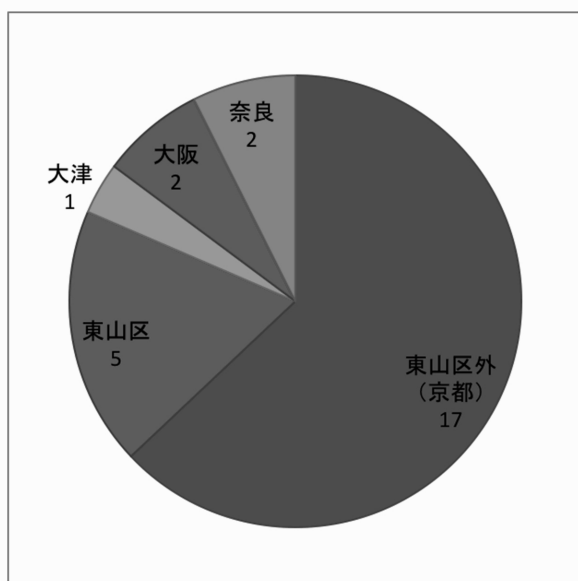


文学まち歩きに参加募集方法は、宣伝チラシ（Appendix2 参照）を京都市内の図書館 19 館、東山区役所、まちづくりカフェ@東山、京都女子大学、京都ウィングズ、京都駅観光案内所で配布し、京都新聞に記事を掲載した。友人・知人の口コミによる効果もあったが、京都市内の図書館でチラシを見て申込みをした参加者が 10 名と最も多かった。「図書館（東山以外）」は、京都市中央、下京、伏見、久我の杜、宇治の 5 館である。

C. 東山図書館を利用したことは？

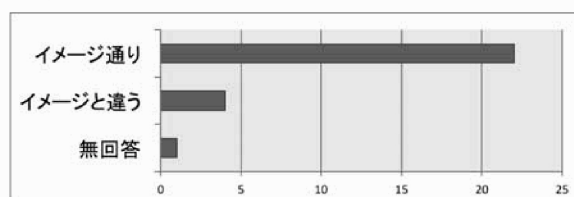


住まい：京都市東山区（5）、京都市東山区外（17）、大阪（2）、奈良（2）、滋賀（1）



文学まち歩きの参加者には、東山の魅力を発見／再発見してほしいというねらいがある。東山区民よりも区外（京都、大阪、滋賀、奈良）からの参加が多かったという結果は、文学まち歩きが東山の持つ地域資源の豊かさを区外にアピールするきっかけになりうることを示している。また、参加者の約 6 割が初めて東山図書館に来館した結果から、図書館から始める文学まち歩きには、図書館の新規利用者の獲得に繋がる可能性があることが分かる。

D. 「図書館から始める文学まち歩き」のイメージは？



「図書館から始める文学まち歩き」という名称やアイデア、歩き方に対しては以下のような意見が寄せられた。参加者自身が「参加型のまち歩き」と表現しているように、「本とまち」を結びつけた文学まち歩きの企画は、ガイドがまちを案内して参加者はそれについて行くだけのまち歩きとは異なる種類のまち歩きであると言える。

- ・「図書館から始める文学まち歩き」というアイデアに魅かれた。
- ・京都市の図書館がどんな取り組みをしているか興味を持ったので参加した。
- ・まち歩きと文学作品を結びつけた企画力に大変興味を持った。
- ・本を読んでたくさんの人と一緒に歩いたのは初めてでとても楽しかった。
- ・イメージどおり。作品の中でモデルになった建物を自分たちで見つけるなど、参加型のまち歩きだった。

5. 状況変化の分析

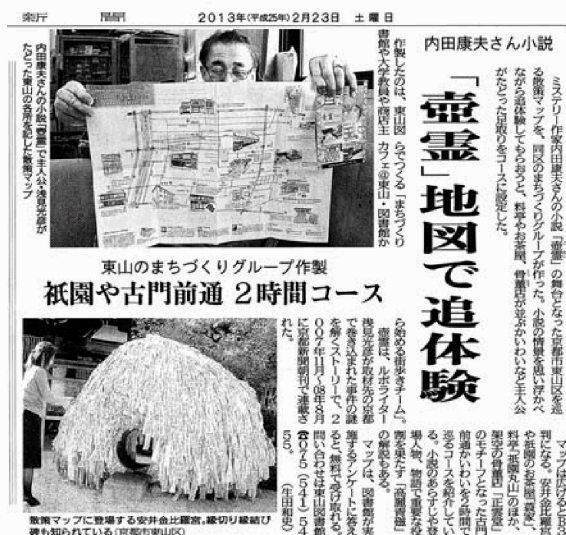
5.1. 東山図書館

東山図書館は、地元が登場する文学作品リストを独自に作成していたが、限られた人員と予算の範囲で文学まち歩きを企画・実行することは困難であった。しかし、図書館が同じ行政内のまちづ

くり活動へ参加したことで以下のような変化が現われた。

- ・ 自館サービスの館外PR
- ・ 自館サービスを基軸にした新規事業の立案
- ・ 新規事業を計画・実行する人員の確保
- ・ 新規事業を実行する資金源の確保
- ・ 東山区の課題解決型事業に認定

京都市内の小さな分館がまちづくり活動に関与し、文学を介して市民と共にまち歩きコースを設計し、マップを作り、イベントを開催したことは、東山区内・区外へと発信された。2012年度は、地元の京都新聞(朝刊・市民版)に2回取り上げられ、⁹⁾ 制作したまち歩きマップは2013年度より京都市内の図書館全19館で配布が始まった。



京都新聞(2013年2月23日)

まちづくり活動への参加の他に、京都市東山図書館が地域と図書館の結びつきを強化させるために努力している点として注目したいのが、東山区行政連絡会の存在と活用である。同連絡会には以下の団体が所属している。

国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所
京都府東山警察署
京都府家庭支援総合センター
社会福祉法人東山区社会福祉協議会
東山郵便局
大阪ガス

関西電力

京阪電鉄

NTT西日本

市の行政機関(環境政策局何部まち美化事務所, 建設局東部土木事務所, 消防局東山消防署, 交通局東西線運輸事務所, 上下水道局東山営業所・蹴上浄水場・きた下水道, 東山開晴館, 東山青少年活動センター, 東山図書館, 東山区役所地域力推進室)

行政連絡会の一員である東山図書館の図書館長は、定例会に出席して図書館の新しい取り組みを紹介し、文学まち歩きの告知やチラシの配布をした。このような地域のネットワークには、図書館チームのメンバーが個人で入り込むことは難しい。館長が図書館と地域のパイプ役として積極的かつ地道に広報活動を行なうことにより、「本とまち」を結びつけた図書館チームのまちづくり活動は段々と地域に根づいていくのではないだろうか。

5.2. 東山区役所

初年度のまちづくり事業を成功させるために、地域力推進室は区民主体のまちづくり活動を支える活動拠点(まちづくりカフェ@東山)と人材(まちづくりアドバイザー)を用意した。初回の交流会に約60名が参加したことからも分かるように、第1の懸案事項であった区民参加は一定数集まることが見込まれた。2ヶ月に1回開催した交流会の成果が実を結び、2012年度は6つのまちづくりチーム(アート, 観光, 婚活サポート, 子育て支援, 図書館, 商店街)が誕生した。¹⁰⁾

行政側の第2の懸案事項であった地域の課題解決に結びつくまちづくり活動の創出については、区の重点取組課題をあらかじめ明示し、それらに関わるまちづくり事業に対して助成金による支援を行なった。その結果、2012年度は7件の課題解決型新規事業が誕生した。¹¹⁾

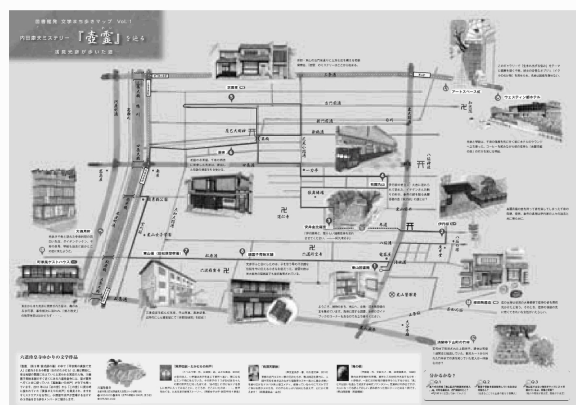
5.3. 新たな観光コンテンツ=地域資料

課題解決型事業のうち、東山区の観光課題を解決することを目指した「図書館から始める文学まち歩き」は、文学とまちを結びつけた新たな観光コンテンツ(まち歩きコース, まち歩きマップ)を開発した。とりわけ、まち歩きマップは、たとえば1枚でも、図書館にとっては地域で発行された地域資料として収集対象となる。

図書館・市民・行政の協働によるマップは、京都市図書館の蔵書目録に「図書館発文学まち歩きマップ 内田康夫ミステリー 壺霊を辿る：浅見光彦が歩いた東山」（まちづくりカフェ@東山「図書館から始める街歩きチーム」、東山図書館、2013、L/291.62/ 1/1）として登録されている。また、京都市右京中央図書館の地域資料コーナー「京都百科事典」にて、貸出用2部と館内用1部を提供している。



東山区の新しい観光コンテンツとなった
文学まち歩きマップ（表紙）



内田康夫ミステリー 壺霊を辿る：
浅見光彦が歩いた東山



右京中央図書館の地域資料コーナー「京都百科事典」

6. おわりに

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の検討に携わった糸賀が指摘するように、まちづくり活動に参加する市民や行政が必要とする資料・情報を提供することは、図書館による課題解決支援の基本である。¹²⁾ 問題は、図書館にそのような情報支援サービスがあることを市民・行政が認知できているかという点である。さらに言えば、図書館が通常のレファレンスサービスの一環で行なった個別の情報支援がまちづくりの成果に繋がったとしても、図書館が地域の課題を解決したとは客観的に評価しづらい。

本稿で提示したモデル「図書館から始める文学まち歩き」は、公的なまちづくりの場に図書館自身が出向き、図書館の取り組みを館外に広めるところから始まった。図書館の地域的なサービスが市民・行政に認知されたことで既存のサービスは図書館や文学を用いた新たな地域サービスへと発展した。図書館・市民・行政が協働して作り上げたプロセスが明確であったため、図書館の新規サービスが地域の観光課題の解決に直接関与していることを地域内外に分かりやすく発信できた。

まちづくりには地域の課題を解決することに関心の高い市民が集まる。まちづくり事業を推進する行政はとりわけ地域の課題解決に協力してくれる市民・団体を必要としている。図書館が既存の地域サービスを活かし、「まちづくりに直接貢献する図書館」を目指して市民・行政との協働に重点を置いた新規サービスを設計する手法は、小規模図書館が人員・予算の制約にとらわれず地域の課題解決を支援する上で有効である。

謝辞

本研究のアクションリサーチ「図書館から始める文学まち歩き」に賛同・協力していただいた東山・図書館チームのみなさん、京都市東山図書館、京都市東山区役所ならびに「壺霊まち歩き」参加者のみなさんに感謝申し上げます。

引用文献・注

- (1) 『日本の図書館：統計と名簿 2012』日本図書館協会, 2013, p.304, 359-370, 394-395.
- (2) 『日本の図書館：統計と名簿 2012』日本図書館協会, 2013, p.194.
- (3) 筆者が 2007 年に行なった東京・文京区における実践研究「図書館から始める街歩き」の成果と課題をもとに、モデルを再設計した。前回モデルの成果は、(1) 図書館の地域資料・情報の更新, (2) 利用者の地域資料に対する認識の向上, (3) 地域から図書館への資料提供ルートの確保である。課題は、地域と図書館との結びつきが弱かった点であった。本研究では、地域と図書館の結びつきを強化させて 2012 年度モデルとした。
- (4) 最新版「京ひがしやま文学散歩」のリストは、京都市東山図書館のホームページからダウンロードすることができる。
『京都市東山図書館』<http://www2.kyoto-citylib.jp/?page_id=161> (2014 年 6 月 18 日アクセス)
- (5) 京都市東山区役所区民部まちづくり推進課『東山・まち・みらい計画 2020』2011.
- (6) 東山区が抱える課題の解決や魅力の向上と地域の活性化を図るまちづくり支援事業では、区民の自主的な活動が増えるように単年度ごとに助成金の交付を行なっている。区が認定する課題解決型事業には活動資金の 4 分の 3 を助成し、区民からの自由提案型事業には活動資金の 2 分の 1 を助成する。
- (7) 2012 年度チーム活動を振り返ったメンバー 14 名のコメントは、Appendix1 を参照。
- (8) machi cafe 『まちカフェ東山』<<http://machicafeh.exblog.jp/>> (2014 年 6 月 18 日アクセス)
- (9) 「内田康夫さん『壺霊』題材に東山文学散歩しよう：市民ら企画 魅力再発見を」(2012 年 10 月 2 日), 「内田康夫さん小説『壺霊』地図」で追体験：東山のまちづくりグループ作製 祇園や古門前通 2 時間コース」(2013 年 2 月 23 日)。
- (10) 京都市東山区役所「まちづくりカフェ@東山 1 周年記念小冊子について」<<http://www.city.kyoto.lg.jp/higasiyama/page/0000142261.html>> (2014 年 6 月 18 日アクセス)
- (11) 京都市東山区役所「東山区まちづくり支援事業助成金の交付決定について (2012 年 7 月 26 日)」<<http://www.city.kyoto.lg.jp/higasiyama/page/0000125420.html>> (2014 年 6 月 18 日アクセス)
- (12) 糸賀雅児「図書館はまちづくりを支える情報拠点 (特集 生涯学習の拠点“図書館”のいまとこれから)」『市政』全国市長会館, Vol.60, No.12, 2011.12, p.18-20.

Appendix 1

2012 年度のチーム活動を振り返って（14 名）

東山図書館が作成した「京ひがしやま文学散歩」東山文学マップから発展して、皆様のおかげで街歩きが実現し、すばらしいマップが出来たことは、図書館として非常にありがたいことだと思っています。この取り組みによって東山の魅力を再発見するとともに、文学を通して皆様と交流が出来ました。来年度も多くのの人たちに東山の魅力を知ってもらい、交流の輪が広がる取り組みにしたいと思います。（京都市東山図書館館長）

図書館の職員という立場では、願ってもない取組みということで参加させていただきました。しかし、仕事を超えて個人的に大変おもしろく、図書館も、今後こういった取組をプロデュース出来る能力と余裕を持ってないものかと考えさせられました。「図書館から始める文学まち歩き」をこれからも続けていけたら街あるきの参加を楽しみにして下さる方が増えると確信しています。（京都市東山図書館副館長）

図書館と文学と東山を融合させた「図書館から始める文学まち歩き」は新感覚のまちづくりです。チーム一丸となって知恵を出し合い、手足を動かし、汗を流したおかげで、東山の新しい地域資料となる「壺霊マップ」を作ることができました。読書とまち歩きを楽しみながら活動をしているうちに、メンバー自身が東山通になれたのも大きな収穫です。「まちを知る」というまちづくりの基本を自然に体感できる点が、この活動の最大の特徴でと実感した一年でした。（京都女子大学教員）

このチームは、職はもちろん、やりたい事もそれぞれ違う事をお持ちの人たちが、リーダーの魅力と、テーマのユニークさに惹かれて集まって発足したのですが、それが効いて良かったようです。プロジェクトの骨格が早い段階で明確・具体化していたおかげで、皆さんが思い思いに出す自由なアイデアを上手く取り込めて、また皆さんの持ち味や立ち位置を上手く生かした多面的な協力関係を育めた事が成功の要因だと思います。2013 年度は、前年度の「交流」の成果を発展させて、「観光」「地域力」で成果を出せるところまで持っていければと思っています。（東山区・和風堂書店店主）

東山が大好きで、東山の魅力を一人でも多くの方に広めたい一心でこのチームに参加して早一年。一冊の本を通じて東山のスポットを巡るマップの作成からイベントの企画まで、探求すればするほど、今まで気づかなかった東山の魅力を再発見することができました。そして、一番の発見は、初対面のメンバーがそれぞれの立場から東山というキーワードで忌憚なく意見を出し合い、互いに結びついていることを実感できたことです。（東山区・女性）

<p>生まれ育った東山区には地域の魅力というものがあるのか？あるならば、それは何だ？地域の魅力は観光社寺や施設だけではなく、市民の生活美学と文化・芸術が根っこになれば・・・などと考えつつ、一篇の小説を通じて東山の魅力を探り、新たに知る機会になった。来年度も続いて文学や芸術に現された東山や鴨川の魅力を探り、ささやかな旅を通じてそれを感じていきたい。(東山区・男性)</p>
<p>「東山が好き」を合言葉に集まったメンバーで活動できた一年。やはり東山には人と人の「ふれあい」や「つながり」の温もりが似合うというのが一番の発見でした。すべてのご縁に感謝です。(東山区・女性)</p>
<p>景観や京町家のこと話せる人との出会いを求めて参加した「まちづくりカフェ@東山」です。東山への考え方は色々な見方があるのだと気付かされました。チームで同じ本を読んで一緒に舞台となった町を歩き、本のイメージの風景を見つけられたり、感想を話したり楽しめました。本文には違和感のある京都の描写があり、そう感じるのは京都人なんだろうなと考える機会となりました。(東山区・町家ゲストハウスオーナー)</p>
<p>「まちづくりカフェ@東山」での図書館から始める街歩きチームの活動はテーマとする書籍の選定からメンバーでのコース選定、試し歩き、地図作りと出来あがっていく段階で地域に暮らしてきたメンバーから子どものころの思い出を聞く機会があったり、文化的な知見を聞きながら地図を工夫したり、回を重ねてブラッシュアップして1つの活動が形になり楽しい活動になりました。(右京区・女性)</p>
<p>今回まち歩きマップの絵を担当させていただき、東山でなじみのある風景の中でも、意識的にある地点に視点を置いて、じっくり向き合ってみると、そこからまた改めてモノや人の日常のドラマが感じられるように思いました。また、一冊の本を軸にみんなでアイデアを出し合い、まち歩きイベントを立ち上げていった、の図書館チームの活動そのものが「楽しい学び」だったように感じます。(イラストレーター)</p>
<p>図書館から始める文学まちあるきチームに参加し、実際に東山の魅力を伝えることが出来たことで、憧れであった京都のまちの一員となれた気がしてとても嬉しかったです。まちづくりカフェに参加するなかで、さらに東山が好きになりました。東山は、人々を惹きつける魅力が備わっている地域であるので、今後も東山の魅力を引き出していけるように、取り組みに継続して参加していきたいと考えています。(学生)</p>
<p>「学生生活で持てあましがちな時間を有意義なことに使いたい」と思い参加しました。最初は、学生が協力できることなんて微々たるものだろうと思っていましたが、企画を通じて、自分の思っている以上に若い力が地域に必要とされていることに気づきました。時には、学生らしさからくる若い人の視点で役立つシーンもあったように思います。今後、このような地域活性の取組みに、若い人の参加が増えれば良いと思います。(学生)</p>

京都の大学に通う学生として参加させていただきました。本に実際に登場する場所や、おそらくここではないだろうか、という予想をしながらのまち歩きは、読書する習慣のなかった私にとって、刺激的な経験となりました。また、学生生活ではなかなか触れ合う機会のない「地域」の方々と接点をもてたというのも良い経験でした。学生の街・京都でありながら、そういった繋がりが希薄である現状が変わっていけばいいと思います。

(学生)

1年間お疲れさまでした。1冊の本を介して、さまざまな人と人、ものものをつなげていく作業は楽しかったですね。まちカフェの中でのチーム作りもそうですが、イベントの企画やマップの制作を通じて、本に登場するたくさんの東山のスポットと、そこに関わる人たちとの新たなつながりが生まれました。その本がなければ、きっと結び付くことのなかった縁であることを考えると、本の持つ可能性というか、もうひとつの魅力を発見できたように思います。本が好きな人はもちろんのこと、それほどでも・・という人も、ぜひチームに参加して、新しい本の魅力を体感してもらえるとうれしいです。(東山区まちづくりアドバイザー)

図書館から始める街歩き実行委員会「図書館から始める文学まち歩き 第一回 内田康夫『壺霊』」2013, p.7-8.

Appendix 2

2012 年度「図書館から始める文学まち歩き」宣伝チラシ

